

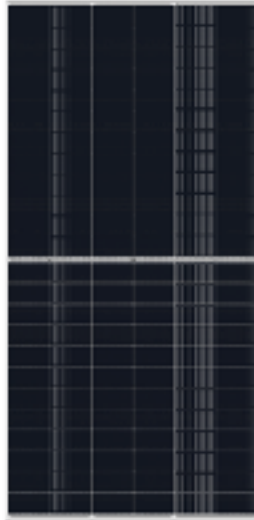
テルサン・ソーラーは山佐株式会社に21.6MWの高効率モジュールを供給



日本の山佐株式会社は、広島県安芸高田市に21.6 M (DC) の太陽光発電所を建設中で、発電所全体の面積は107,536平方メートル、投資総額は85億円と見積もっている。

山佐株式会社は150年以上の歴史を持つ著名な日本企業であり、最初に材木製材事業、後にスロットマシンの製造や航空機と船舶のリースを運営し、2013年以降、太陽光発電事業に進出している。これまでのところ、同社は650MW以上の太陽光発電所プロジェクトを蓄積してきている。

今回のプロジェクトでは、中利テルサン社製のBISTARシリーズ、ハーフカットセル・マルチバスバーデザイン単結晶モジュールが採用されている。モジュール単体最大出力は410Wに到達し、影による出力損失を最小限に抑えられ、太陽光発電所全体で極めて効率の良い発電が可能となっている。



山佐株式会社は、この度の中利テルサンとのパートナーシップは、これまでにテルサンモジュールが採用された日本国内のプロジェクトの実績を参照するとともに、同社製品の品質やサービス等を様々な角度から検討した結果であると述べている。

テルサン・ソーラーは2015年に日本市場に参入し、発電所開発とモジュール販売を行っており、東京と福岡に支店を設立し、セールス、テクニカル、アフターセールスチームを擁している。現在、テルサンは日本国内で毎年約100MWの発電所を開発し、約100MWのモジュールを販売しており、毎年200MW以上の太陽光発電所建設に参画している。アフターサービスも充実していると、顧客から高い評価を受けている。同時に、テルサンチームは、発電所の建設に際して、プロジェクトサイトの調査、モジュールのデザインと選択、現場での設置と建設等において、丁寧なサービスを提供している。これは、チーム全体の信頼性とプロ意識を完全に反映している。

建設中の広島県安芸高田市の発電所は、2021年4月には系統連系運転が開始される予定である。